



システム イベント ログ

- [システム イベント ログ \(1 ページ\)](#)
- [サーバのシステム イベント ログの表示 \(2 ページ\)](#)
- [SEL ポリシーの設定 \(3 ページ\)](#)
- [サーバのシステム イベント ログのバックアップ \(6 ページ\)](#)
- [サーバのシステム イベント ログのクリア \(7 ページ\)](#)

システム イベント ログ

システム イベント ログ (SEL) は、NVRAM 内の CIMC に存在します。SEL は、システム正常性に関するトラブルシューティングのために使用されます。過不足電圧のインスタンス、温度イベント、ファンイベント、BIOS イベントなど、ほとんどのサーバ関連イベントが記録されます。SEL によってサポートされるイベントのタイプには、BIOS イベント、メモリユニットイベント、プロセッサ イベント、およびマザーボード イベントが含まれます。

SEL ログは SEL ログ ポリシーに従って CIMC NVRAM に保存されます。SEL ログを定期的にダウンロードしてクリアすることがベストプラクティスです。SEL ファイルのサイズは約 40KB で、ファイルがいっぱいになるとそれ以上イベントを記録できません。新たなイベントを記録できるようにするには、ファイルの中身をクリアする必要があります。

SEL ポリシーを使用して、SEL をリモートサーバにバックアップできます。また、必要に応じて、バックアップ操作後に SEL をクリアすることもできます。バックアップ操作は、特定のアクションに基づいて起動するか、定期的に行われるように設定できます。SEL のバックアップやクリアは、手動で行うこともできます。

バックアップ ファイルは、自動的に生成されます。ファイル名の形式は `sel-SystemName-ChassisID-ServerID-ServerSerialNumber-Timestamp` です。

たとえば、`sel-UCS-A-ch01-serv01-QC112522939-20091121160736` という名前になります。

サーバのシステム イベント ログの表示

各サーバのシステム イベント ログの表示

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# show sel <i>chassis-id / blade-id</i>	指定したサーバのシステム イベント ログを表示します。

例

次に、シャーシ 1 のブレード 3 のシステム イベント ログを表示する例を示します。

```
UCS-A# show sel 1/3
 1 | 01/01/1970 01:23:27 | System Event 0x83 | Timestamp clock synch | SEL timestamp
    clock updated, event is f
    irst of pair | Asserted
 2 | 01/01/1970 01:23:28 | Drive slot(Bay) SAS0_LINK_STATUS | Transition to Degraded
    | Asserted
 3 | 01/01/1970 01:23:28 | Drive slot(Bay) SAS0_LINK_STATUS | Transition to On Line
    | Deasserted
 4 | 01/01/1970 01:23:28 | Platform alert LED_SAS0_FAULT | LED is blinking fast |
    Asserted
 5 | 01/01/1970 01:23:28 | Platform alert LED_SAS0_FAULT | LED is on | Deasserted
 6 | 01/01/1970 01:23:28 | Platform alert LED_FPID | LED is on | Asserted
 7 | 01/01/1970 01:23:28 | Platform alert LED_FPID | LED is off | Deasserted
 8 | 01/01/1970 01:23:29 | Entity presence MAIN_POWER | Device Absent | Asserted
 9 | 01/01/1970 01:23:29 | Entity presence MAIN_POWER | Device Present | Deasserted
 a | 01/01/1970 01:23:29 | Platform alert LED_SAS0_FAULT | LED is on | Asserted
 b | 01/01/1970 01:23:29 | Platform alert LED_SAS0_FAULT | LED color is green |
    Asserted
 c | 01/01/1970 01:23:29 | Platform alert LED_SAS0_FAULT | LED is blinking fast |
    Deasserted
 d | 01/01/1970 01:23:29 | Platform alert LED_SAS0_FAULT | LED color is amber |
    Deasserted
 e | 01/01/1970 00:00:22 | Drive slot(Bay) SAS0_LINK_STATUS | Transition to Degraded
    | Asserted
 f | 01/01/1970 00:00:22 | Entity presence MEZZ_PRS | Device Present | Asserted
10 | 01/01/1970 00:00:22 | Entity presence HDD1_PRS | Device Absent | Asserted
```

シャーシ内の全サーバのシステム イベント ログの表示

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>chassis-id / blade-id</i>	指定サーバーのシャーシサーバー モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # show sel	システム イベント ログを表示します。

例

次に、シャーシサーバモードからシャーシ 1 内のブレード 3 のシステム イベント ログを表示する例を示します。

```
UCS-A# scope server 1/3
UCS-A /chassis/server # show sel
 1 | 01/01/1970 01:23:27 | System Event 0x83 | Timestamp clock synch | SEL timestamp
    clock updated, event is f
    first of pair | Asserted
 2 | 01/01/1970 01:23:28 | Drive slot(Bay) SAS0_LINK_STATUS | Transition to Degraded
    | Asserted
 3 | 01/01/1970 01:23:28 | Drive slot(Bay) SAS0_LINK_STATUS | Transition to On Line
    | Deasserted
 4 | 01/01/1970 01:23:28 | Platform alert LED_SAS0_FAULT | LED is blinking fast |
    Asserted
 5 | 01/01/1970 01:23:28 | Platform alert LED_SAS0_FAULT | LED is on | Deasserted
 6 | 01/01/1970 01:23:28 | Platform alert LED_FPID | LED is on | Asserted
 7 | 01/01/1970 01:23:28 | Platform alert LED_FPID | LED is off | Deasserted
 8 | 01/01/1970 01:23:29 | Entity presence MAIN_POWER | Device Absent | Asserted
 9 | 01/01/1970 01:23:29 | Entity presence MAIN_POWER | Device Present | Deasserted
 a | 01/01/1970 01:23:29 | Platform alert LED_SAS0_FAULT | LED is on | Asserted
 b | 01/01/1970 01:23:29 | Platform alert LED_SAS0_FAULT | LED color is green |
    Asserted
 c | 01/01/1970 01:23:29 | Platform alert LED_SAS0_FAULT | LED is blinking fast |
    Deasserted
 d | 01/01/1970 01:23:29 | Platform alert LED_SAS0_FAULT | LED color is amber |
    Deasserted
 e | 01/01/1970 00:00:22 | Drive slot(Bay) SAS0_LINK_STATUS | Transition to Degraded
    | Asserted
 f | 01/01/1970 00:00:22 | Entity presence MEZZ_PRS | Device Present | Asserted
10 | 01/01/1970 00:00:22 | Entity presence HDD1_PRS | Device Absent | Asserted
```

SEL ポリシーの設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org org-name	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # scope ep-log-policy sel	組織エンドポイントログポリシーモードを開始し、SEL ポリシーにスコープします。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	(任意) UCS-A /org/ep-log-policy # set description <i>description</i>	ポリシーの説明を記します。 (注) 説明にスペース、特殊文字、または句読点が含まれている場合、説明を引用符で括弧します。引用符は、 show コマンド出力の説明フィールドには表示されません。
ステップ 4	UCS A/org/ep-log-policy # set backup action [log-full] [on-change-of-association] [on-clear] [timer] [none]	バックアップ操作をトリガーするアクションを指定します。
ステップ 5	UCS-A /org/ep-log-policy # set backup clear-on-backup { no yes }	バックアップ操作の発生後にシステムイベントログをクリアするかどうかを指定します。
ステップ 6	UCS-A /org/ep-log-policy # set backup destination <i>URL</i>	バックアップ操作のプロトコル、ユーザ、パスワード、リモートホスト名、リモートパスを指定します。使用するプロトコルに応じて、次の構文のいずれかを使用して URL を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • ftp:// <i>username@hostname / path</i> • scp:// <i>username @ hostname / path</i> • sftp:// <i>username @ hostname / path</i> • tftp:// <i>hostname : port-num / path</i> (注) set backup hostname 、 set backup password 、 set backup protocol 、 set backup remote-path 、 set backup user コマンドを使用するか、 set backup destination コマンドを使用して、バックアップ先を指定することもできます。いずれかの方法を使用してバックアップ先を指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	UCS-A /org/ep-log-policy # set backup format { <i>ascii</i> <i>binary</i> }	バックアップファイルの形式を指定します。
ステップ 8	UCS-A /org/ep-log-policy # set backup hostname { <i>hostname</i> <i>ip-addr</i> }	リモート サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。
ステップ 9	UCS A/org/ep-log-policy # set backup interval { 1-hour 2-hours 4-hours 8-hours 24-hours never \\	自動バックアップ操作の間隔を指定します。 never キーワードを指定すると、自動バックアップは実行されません。
ステップ 10	UCS-A /org/ep-log-policy # set backup password <i>password</i>	ユーザ名のパスワードを指定します。この手順は、TFTP プロトコルを使用する場合には適用されません。
ステップ 11	UCS A/org/ep-log-policy # set backup protocol { ftp scp sftp tftp \\	リモートサーバとの通信時に使用するプロトコルを指定します。
ステップ 12	UCS-A /org/ep-log-policy # set backup remote-path <i>path</i>	バックアップファイルが保存されるリモート サーバのパスを指定します。
ステップ 13	UCS-A /org/ep-log-policy # set backup user <i>username</i>	システムがリモートサーバーへのログインに使用する必要のあるユーザー名を指定します。この手順は、TFTP プロトコルを使用する場合には適用されません。
ステップ 14	UCS-A /org/ep-log-policy # commit-buffer	トランザクションをコミットします。

例

次の例は、システム イベント ログ (ASCII 型式) を 24 時間ごとまたはログがいっぱいになったときにバックアップするよう、またバックアップ操作後にシステム イベント ログをクリアするよう SEL ポリシーを設定し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope ep-log-policy sel
UCS-A /org/ep-log-policy # set backup destination scp://user@192.168.1.10/logs
Password:
UCS-A /org/ep-log-policy* # set backup action log-full
UCS-A /org/ep-log-policy* # set backup clear-on-backup yes
UCS-A /org/ep-log-policy* # set backup format ascii
UCS-A /org/ep-log-policy* # set backup interval 24-hours
UCS-A /org/ep-log-policy* # commit-buffer
UCS-A /org/ep-log-policy #
```

サーバのシステム イベント ログのバックアップ

個々のサーバのシステム イベント ログのバックアップ

始める前に

システム イベント ログ ポリシーを設定します。手動によるバックアップ操作では、システム イベント ログ ポリシーで設定されたリモート宛先を使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A /chassis/server # backup sel chassis-id / blade-id	システム イベント ログをバックアップします。
ステップ 2	UCS-A# commit-buffer	トランザクションをコミットします。

例

次の例は、シャーシ 1 内のブレード 3 からシステム イベント ログをバックアップし、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# backup sel 1/3
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A#
```

シャーシ内の全サーバのシステム イベント ログのバックアップ

始める前に

システム イベント ログ ポリシーを設定します。手動によるバックアップ操作では、システム イベント ログ ポリシーで設定されたリモート宛先を使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server chassis-id / blade-id	指定サーバーのシャーシ サーバー モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # backup sel	システム イベント ログをバックアップします。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server # commit-buffer	トランザクションをコミットします。

例

次の例は、シャーシ 1 内のブレード 3 のシャーシ サーバ モードからシステム イベント ログをバックアップし、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope server 1/3
UCS-A /chassis/server # backup sel
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

サーバのシステム イベント ログのクリア

個々のサーバのシステム イベント ログのクリア

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# clear sel chassis-id / blade-id	システム イベント ログをクリアします。
ステップ 2	UCS-A# commit-buffer	トランザクションをコミットします。

例

次の例は、シャーシ 1 内のブレード 3 からシステム イベント ログをクリアし、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# clear sel 1/3
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A#
```

シャーシ内の全サーバのシステム イベント ログのクリア

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server chassis-id / blade-id	指定サーバーのシャーシ サーバ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # clear sel	システム イベント ログをクリアします。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server # commit-buffer	トランザクションをコミットします。

例

次の例は、シャーシ 1 内のブレード 3 のシャーシサーバモードからシステム イベント ログをクリアし、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope server 1/3  
UCS-A /chassis/server # clear sel  
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer  
UCS-A /chassis/server #
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。